

## 日差しが強い季節！日焼けだけでなく 貼り薬・ぬり薬にも気をつけましょう

### 紫外線のイタズラ！

暑い夏、きっと皆さんは日焼けに気をつけていらっしゃることでしょ。

実は、身近な薬の中にも日差しに気をつけてほしいものがあります。それは痛み止めが配合されている外用薬（貼り薬やぬり薬など）などです。普通日焼けするほどの強さではない日光などの紫外線があたって、薬を貼ったり塗ったりしたところだけ赤くただれたり水ぶくれが出たりすることがあり、薬を止めて数ヶ月しても出ることがあるのです。これは、まれに出る副作用のひとつで光線過敏症というものです。香水や日焼け止めがかぶれを起こしたことがある人は、この副作用が出やすい傾向がありますので注意しましょう。

成分表示を確認



### 飲み薬でも注意！

また、一部の飲み薬（プロピオン酸系・フェニル酢酸系鎮痛剤、ニューキノロン系抗菌剤、降圧剤、スルホニル尿素系血糖降下剤など）でも同様の副作用がまれに出るとの報告があります。薬をのんでいる人で海水浴などの強い日差しを長く浴びるような時は、できるだけ遮光するようにしましょう。

かゆいよ



紫外線マン

### 成分表示をよく見て！

外用薬の成分（商品名ではなく、箱書きの裏などにある『成分』）ケトプロフェンが配合されている外用薬は、特に注意が必要です。使った後は薬がついた手をよく洗いましょう。また、ケトプロフェンを含む外用薬と、オクトクリレンという成分が配合されている日焼け止めなどを一緒に使うと光線過敏症が起こりやすくなるので、化粧品成分にも注意しましょう。

この副作用を起こさないためには、天候にかかわらずでの活動をできるだけ避けるとともに、日頃の外出時も薬を貼ったり塗った部分は、服やサポーター等で遮光することが必要です。白い生地や薄手の服は紫外線を透過させるおそれがあるので、紫外線を透過させにくい色物の服などを着ましょう。使用後も少なくとも4週間程度は注意をしましょう。

紫外線対策を  
しっかり！



薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎058-247-5122

協力／岐阜県薬剤師会 〒500-8146 岐阜市九重町4-5 <http://www.gifuyaku.or.jp> 岐阜県薬剤師会 検索